

# 長岡京跡右京第1291次調査 現地説明会資料

遺跡名 右京六条二坊十五町、開田遺跡  
所在地 長岡京市開田三丁目地内  
調査期間 2024年4月15日～6月末  
調査面積 348㎡

## 調査の概要

本調査は、阪急長岡天神駅の東街区整備に伴う発掘調査として実施しました。調査地は、北東から南西方向に傾斜する緩扇状地の先端付近に位置しており、付近の標高は約22mです。周辺は、市街地化した中でも水田畦畔や道路、河川、地名などに古代から中世の痕跡が良く残されています。本地点では、鎌倉時代、長岡京期、古墳時代の遺構が水田耕作土直下の地山層から見つかり、旧地表面は削平されたことがわかります。

右京六条二坊十五町の調査では、掘立柱建物と西二坊大路などの道路側溝が確認されています。開田遺跡は、縄文時代から中世に至る遺跡で、付近では古墳時代の竪穴建物と掘立柱建物が発見されています。

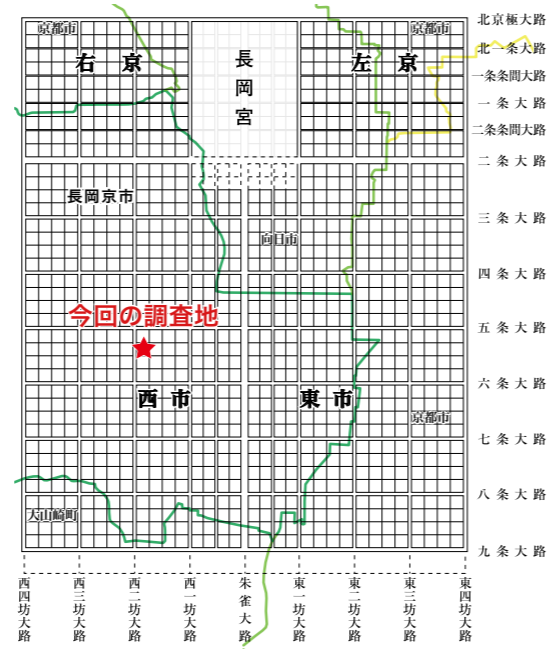


図1 調査地位置図

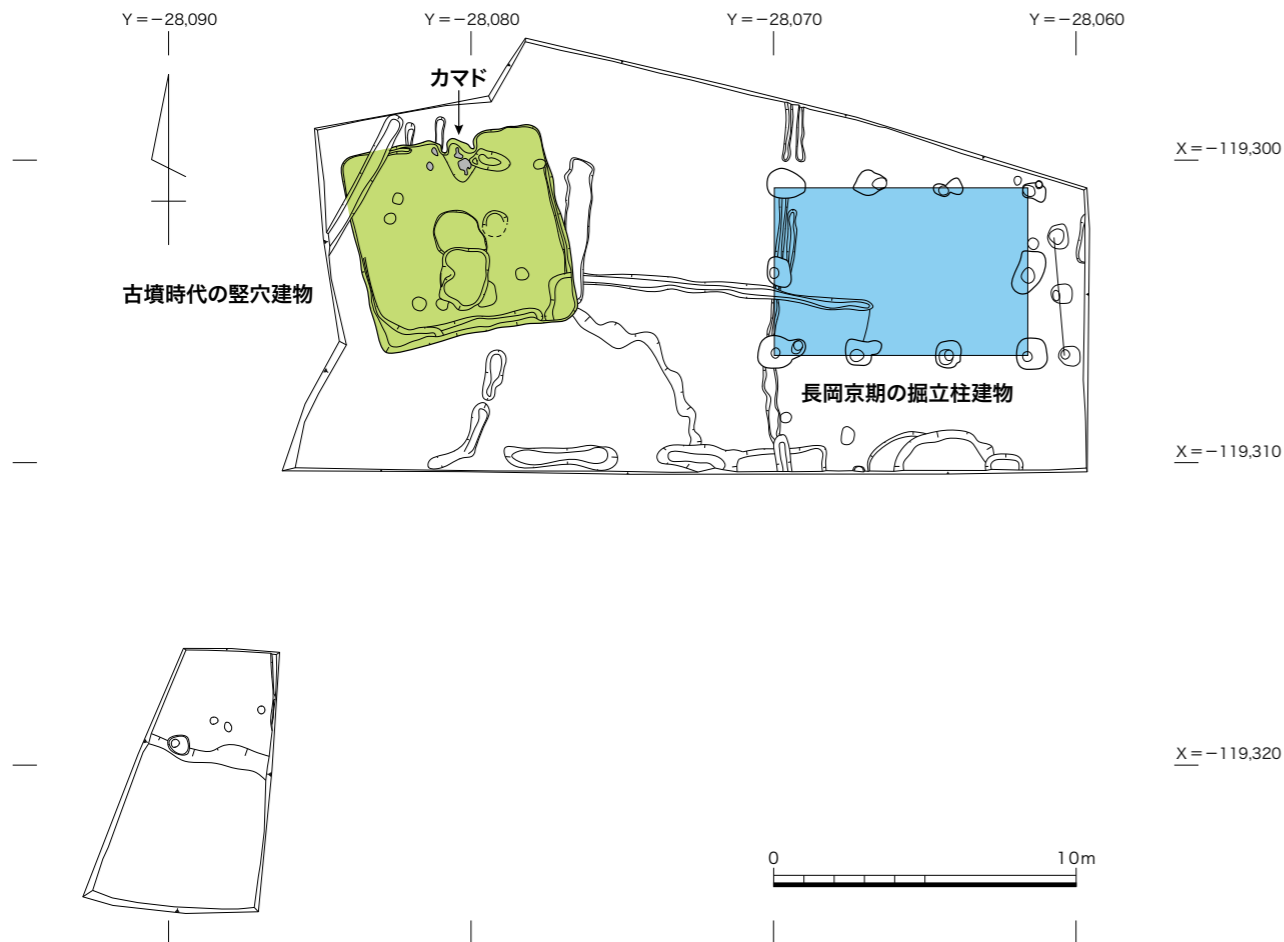


図2 調査区検出遺構図 (1/250)

## a. 長岡京期

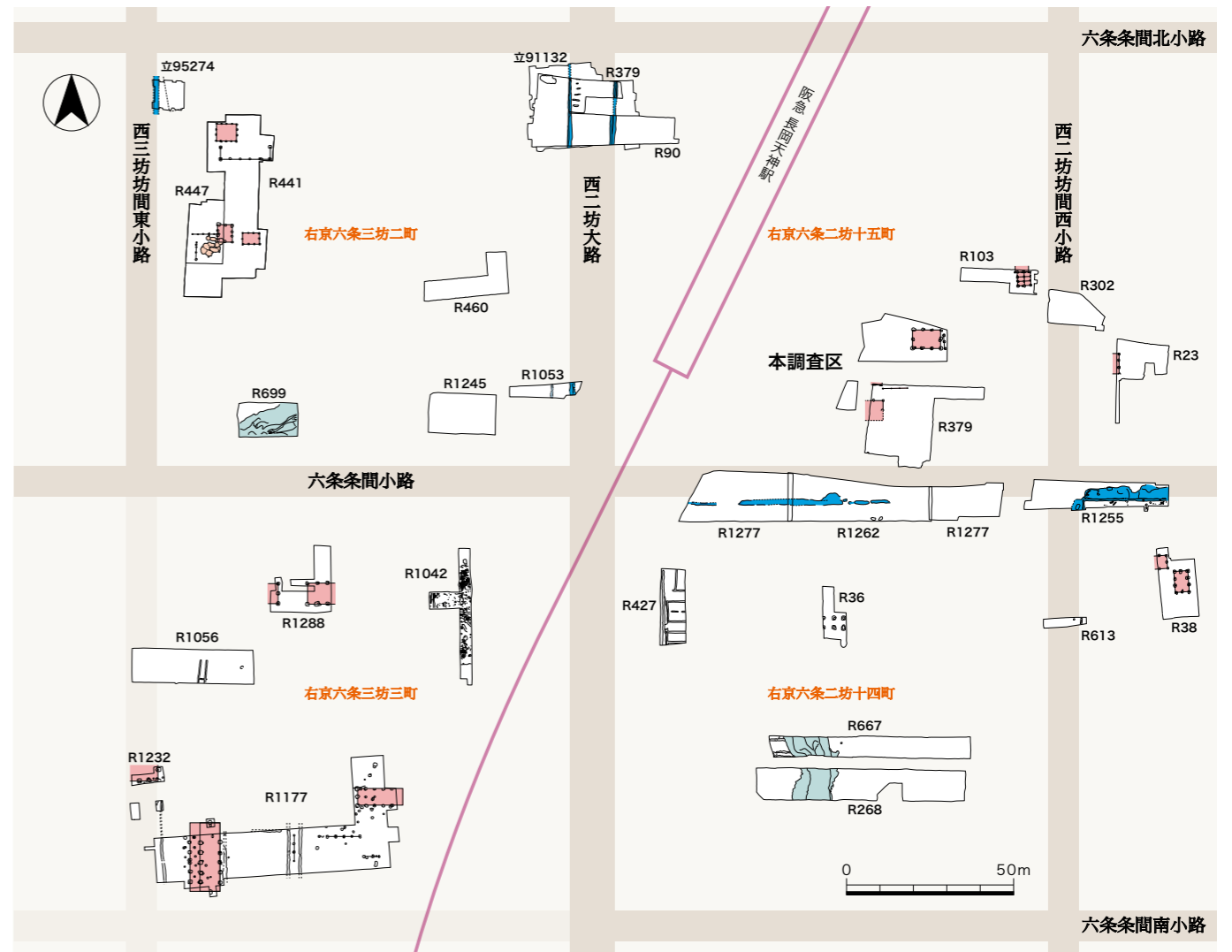


図3 調査地周辺の長岡京期の遺構 (1/2000)

### 長岡京期の掘立柱建物

東西棟3間×2間の建物。旧地表面がかなり削平されているために、方形の柱掘形は浅く不整形な形になっています。柱根は残っていませんが、柱痕跡をとどめるものがあり、柱間は2.7m(9尺)等間と想定されます。建物規模は8.1×5.4mです。調査区東端の南北2間分の柱列は、方位が北で西に振ることから時期が異なる建物と考えられます。

写真1▶

掘立柱建物の  
検出状況  
(北西から)



## b. 古墳時代

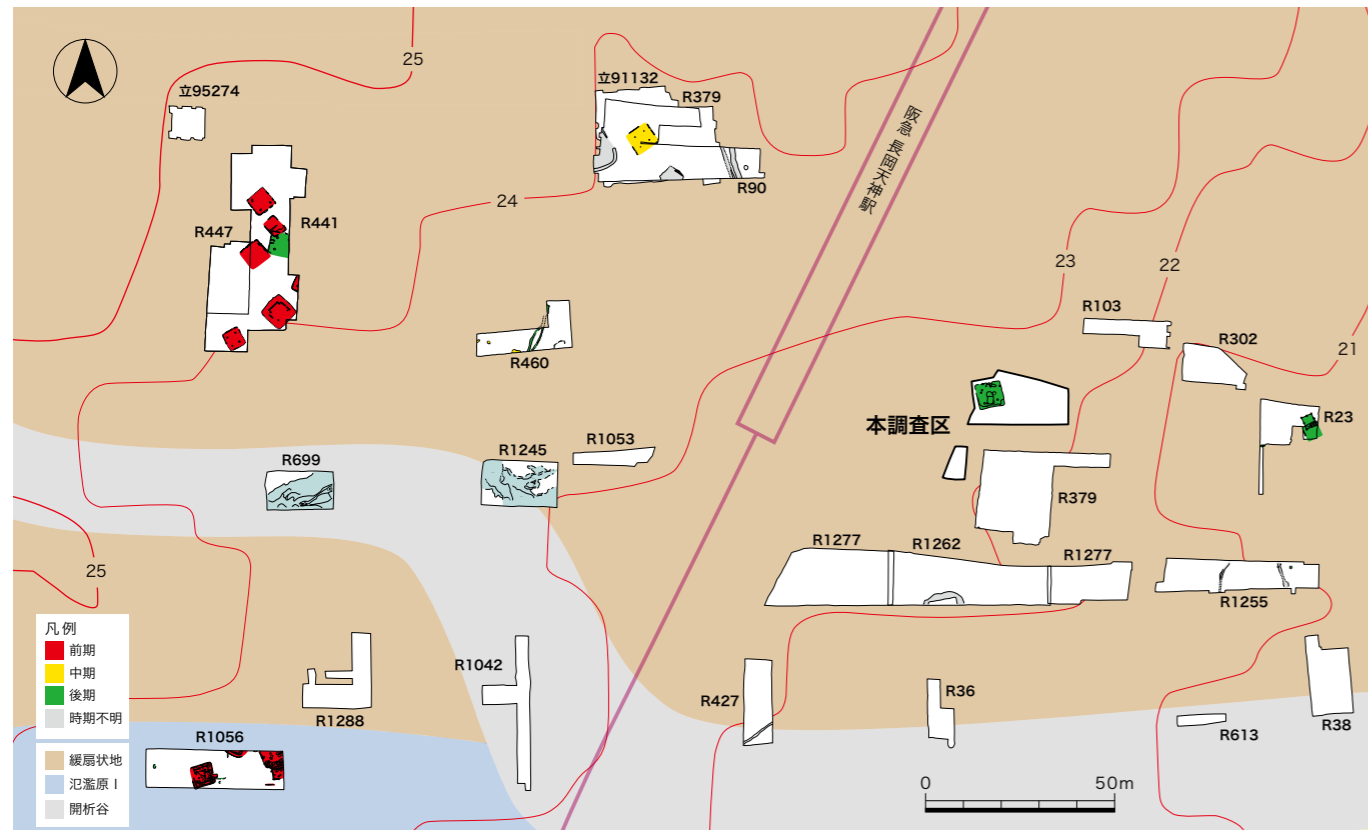


図4 調査地周辺の古墳時代の遺構 (1/2000)

### 古墳時代の竪穴建物

一辺 6.5 m の隅円方形。建物の北西辺には馬蹄形のカマドを設けており、火熱を受けた小さな土塊と炭片が堆積しています。カマド内には土師器の壺や甕が残されており、カマドのそばから土錘と石が見つかりました。壁際には溝が巡っており、支柱は 3 本まで確認できます。一辺 4 ～ 5 m 前後の竪穴建物が多い中、本例は規模が大きいものです。

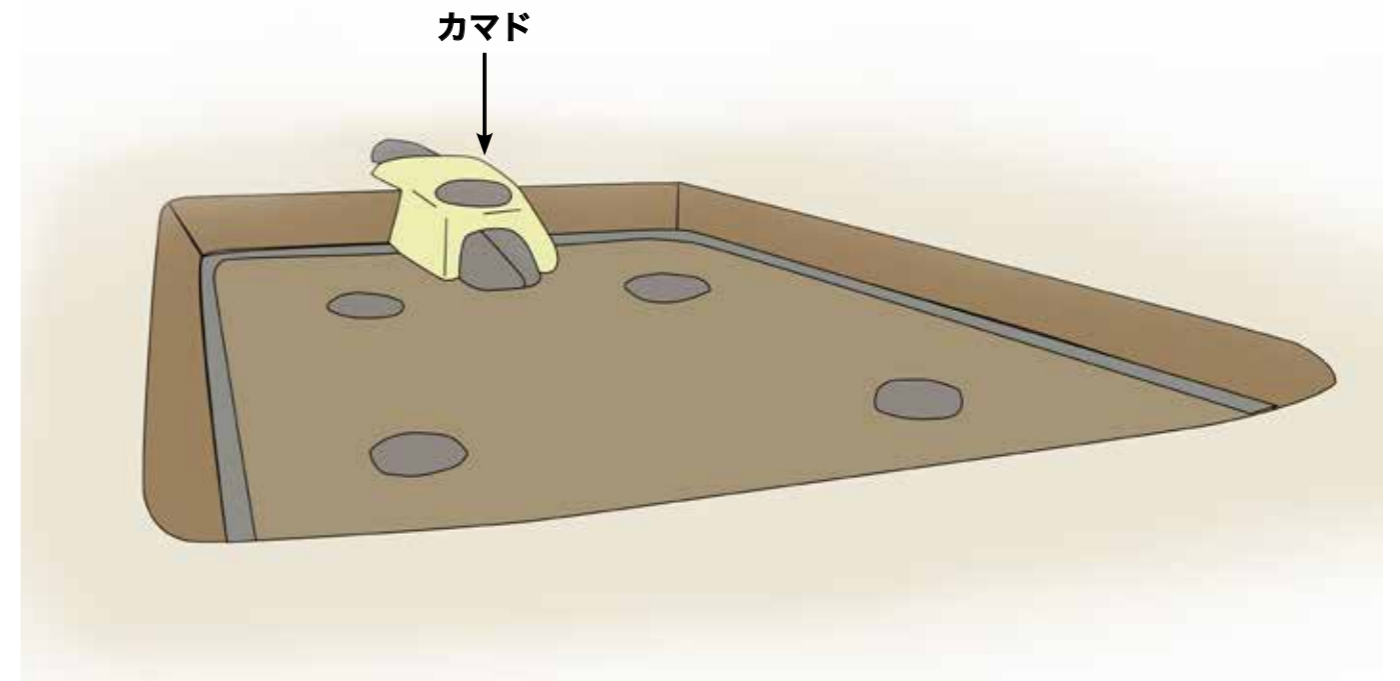


図5 竪穴建物に取り付くカマドのイメージ図



▲ 写真2 竪穴建物のカマド出土状況 (南から)



▲ 写真3 竪穴建物全景 (南西から)